
音楽室で揺れる前髪

皿尾 りお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音楽室で揺れる前髪

【Nコード】

N4308D

【作者名】

皿尾 りお

【あらすじ】

前髪が揺れることは、怖い事です。あなたも、恋で怖い経験したこと、ありますか？

君と僕が付き合い始めたのは、高校1年の秋。
覚えてるよ。

一緒に文化委員になったよね。

大変だったよね。

文化祭。

その打ち上げでの君からの告白。

ホント、嬉しかった。

ホント、僕も好きだったから。

初めて、神様っているんだなあって思ったよ。

君と付き合い始めて、未来なんて消えていったんだよ。

君という「今」だけがあれば良かった。

それから高校2年になって、また同じクラスになっても、僕は驚か

なかった。

だって、神様はいるんだもの。

毎日一緒に帰ったよね。

君は音楽部で、僕はバスケット部。

僕のほうが終わるのが遅かったから、君はいつも一人、音楽室で待っていて居たよね。

音楽部は終わるのが早かったから。

だから、初めて手を繋いだのも音楽室。

初めてキスしたのも。

いつも音楽室には西日が差し込んでいて、それを浴びる君は、いつも信じられないほど綺麗

だったよ。

その日は、「待たなくていいよ。」って言ったんだ。

次の日は試合だから。

練習が遅くなると思って。

でも、顧問の先生が、明日は試合だから練習を早めに切り上げて、
ゆっくり疲れを取れて。

それでも終わったのは、いつもと変わらないくらいの時間だったんだけど。

だから僕は、音楽室に行っただ。

もう、とっくに帰っているんだろうなあって思いながら。

でも、君と会いたかったから。

僕は、音楽室の窓から中をのぞく。

やっぱり、君は居なかった。

会いたかったな。

電気もついてないし。

僕は音楽室を後にしようとした。

その時、窓から見える音楽室奥の楽器保管室の扉の隙間から、かすかに、長い前髪が揺れる

のが見えた気がした。

君だろうか？

君だったら、いいのにな・・・

僕は目を凝らした。

誰かの前髪が揺れている。

前髪が揺れている。

前髪が揺れている。

音楽室の扉は鍵がかかっている。

僕は、楽器保管室の扉の隙間が、よく見える窓に移動する。

・・・君だ。

君の後ろから、男が腰を振っている。

男が腰を振っている。

男が腰を振っている。

君の前髪が揺れる。

揺れる。

揺れる。

揺れる。

僕は、怖くなってしゃがんだ。

今じゃ、もう、いつ別れたのかも、どうやって別れたのかも思い出せない。

・・・・・・・・君と手を繋いだ？

・・・・・・・・君と？笑った？

．．．．君？と？帰った？

．．．．君？と？恋？して？いた？？

．．．．どう？しよ？うも？ないくらい？会いた？かった？？？
？？？

確かに、未来なんて消えて行ったんだ．．．

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4308d/>

音楽室で揺れる前髪

2010年12月28日14時07分発行